

新人職員のホンネ

保険局調査課 岡田 真央

私は、数理的な能力を生かせる仕事の一つとして厚生労働省に入省しました。実際に働いてみて、統計の作成を正確かつ効率的に行い、さらにその結果と解釈を人に伝える業務では、数理的な能力や学業での経験が生きています。分析にあたっては学術論文を参照することもあり、学問をやっていると良かったと思う機会は多いです。入省直後は苦手だった電話応対なども、周囲の人に助けられながら習得していていると思います。

Q. どんな業務を
行っていますか？



A. 主な業務は後期高齢者医療制度に関する統計と医療費の地域差分析の作成です。これらのデータは省内で活用されているため、データの作成担当者として、制度や政策を担当する部署からの関連する数値の作成やさらなる分析等の依頼にも対応します。

労働基準局労災管理課 労災保険財政数理室

寺澤 命斗

私は偶々参加した説明会で数理職の話聞き、就職先の候補として興味を持ちました。現在は労災保険の保険料率等に関する業務に当たっており、数理的な素養はもちろんですが、制度に関する知識も必要になってきます。特に法令は文法や言葉遣いが独特で、初めこそ難しく感じましたが、上司や先輩に諸々教えてもらい漸く慣れてきたように思います。少しでも興味を持っていただけたら、是非説明会等に参加してみてください。

Q. 入省して
感じたことは？



A. 休暇を時間単位で細かくとれたり、出勤時刻をずらすことができたり、テレワークが導入されていたりと、働きやすい職場だと感じています。朝が苦手な私は遅めに出勤していますが、その分夜更かししてしまい、結局朝にゆとりがないことも…。

皆様と一緒に
働けることを
楽しみにしています！



私は、人々の暮らしと密接に関わっている分野で数理的な能力を活かしたいと思い、数理職を志望しました。業務の中で、一般の方からお問い合わせをいただくこともよくあり、年金事業への関心の高さを日々実感しています。

数理職には、その名の通り数学・物理学系の出身者が多いですが、新たにデジタル区分からの採用も始まるということで、そちらからも多くの方々に志望していただけると、情報系出身者としては、とても嬉しいです。

Q. 官庁訪問とは
どんなものですか？



A. 官庁訪問は面接と言うより対話のような雰囲気に近いです。数理職の仕事の内容・実態を詳しく聴くことや、人の雰囲気を知ることができる、他にない機会でもあります。数理職に少しでも興味がある方には、ぜひご参加いただき、その魅力を感じていただきたいです。

保険局調査課 鈴木 一毅

私の配属先では、公的医療保険の持続性確保のため、調査・分析をしています。医療保険制度のファイナンスは細部までの理解が簡単ではありませんが、先輩方が丁寧に教えてくださるので、興味を持って取り組んでいます。また、私の係は課の窓口業務もしています。他課との調整や膨大なメールの処理など大変なこともありますが、局内全体の動きを知ることができるので勉強になります。

Q. 入省して
感じたことは？



A. 私が配属された4月は医療制度改革の法案が国会で審議されており、局内はとても忙しい時期でした。膨大な作業を淡々とこなしつつ、議論も交わす先輩方の姿に圧倒されることもありましたが、私が質問をした時はいつも穏やかに対応して下さいました。また、制度改革への対応は例えるならば、毎日がお祭りの前日のように見え、今後の仕事へのモチベーションになりました。

政策統括官付参事官 (企画調整担当)付 賃金福祉統計室

柳原 良亮

数理スキルを活かして国民生活に密着した課題に取り組みたいと思い、数理職の門を叩きました。業務では日々、標本設計や数値の分析等で数理の知識が求められます。一方、詳細な分析には社会の制度や傾向の把握が必要であったり、また行政官として各所との調整業務を担ったりもします。こうした場面では少なからず戸惑いますが、経験豊富な上司・先輩が丁寧に助けて下さります。こうして学び成長できる恵まれた環境が整っていると感じます。

Q. 休日には
何をしていますか？



A. 仕事のための自己研鑽として、英語や統計理論をはじめとした数学などの勉強に一定の時間を費やしています。とはいえ、せっかくなのでリフレッシュ機会なので、基本的には仕事を離れて、サイクリングや食べ歩き、あるいは家でひたすら映画鑑賞といった趣味に興じています。